

③ 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

*たかどの
高樓 島崎藤村

妹

① とおきわかれに たえかねて
このたかどのに のぼるかな

かなしむなかれ わがあねよ
たびのころもを とゝのえよ

姉

わかれといえは むかしより
このひとのよの つねなるを

ながるゝみずを ながむれば
ゆめはずかしき なみだかな

妹

したえるひとの もとにゆく
きみのうえこそ たのしけれ

ふゆやまこえて きみゆかば

20

15

10

5

② なにをひかりの わがみぞや

(島崎藤村『藤村詩集』所収「高樓」より)

(注)

高樓……何層かの高い建物。

問一 ——— ①「とおきわかれに たえかねて」とありますが、ここでの妹の気持ちを答えなさい。

問二 第三・四連での姉の気持ちを答えなさい。

問三 ——— ②「なにをひかりの わがみぞや」とありますが、ここでの妹の気持ちを答えなさい。

問四 この「高樓」の詩は、藤江英輔氏が大学予科生の時、第二連の「あね」を「友」に変えて「惜別の唄」として作曲され、今日まで広く歌い継がれています。藤江氏は一九二六年（昭和元年）生まれであることから想像して、どのような状況のとき、どのような思いで唄われたのか、考えて答えなさい。